

特別版

学校力アップシリーズ
.....



心の天気を 活用した 温かい学級づくり

.....

「子どもの困った!」をキャッチして
子どもとつながる

和田裕枝 著

EDUCOM



心の天気を活用した温かい学級づくり ～「子どもの困った！」をキャッチして 子どもとつながる～

はじめに 3

1 学級づくりは子どもとの
出会いの日からスタートする 4

2 「子どもの困った！」を
キャッチできる教師になる 6

3 「子どもの困った！」から
子どもとつながる 10

4 1年間を通した
温かい学級づくりへの道 14

● 参考資料「心の天気」 16

はじめに

温かい学級。

これは子ども、保護者、学校、地域、社会のだれもが望む教育環境です。温かい学級のイメージはそれぞれ違っていても、子どもが1日を過ごす学級が温かければ、登校時よりも元気になって下校することができ、日々の成長につながります。

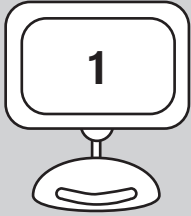
教育には不易と流行があるとされています。ゴールである「温かい学級づくり」が不易であるのに対して、その実現手段は流行で、流行は時代とともに変化しています。40人学級、少人数指導、習熟度別学習、パソコン教室の設置、オンライン学習、一人一台端末の導入など、これらはいずれも流行と考えられます。そして教師はこれらの流行を有効に活用していく必要があります。

温かい学級づくりは、「子どもの困った！」をいち早くキャッチすることから始まります。子どもが困ったときは見守っている保護者、地域、社会が支援の手を差し伸べてくださいます。さらに「今、子どもが困っている」とキャッチできる教師がいたら、支援はより早くなり温かい学級づくりを阻む問題の早期解決につながります。

子どもの生活の半分は家庭、もう半分は学校です。本冊子には「心の天気(※)」を活用して、先生が学校で「子どもの困った！」をキャッチすることに焦点をおき、子どもに寄り添う温かい学級づくりをするためのヒントをまとめてみました。子どもの心の表現の捉え方、具体的な声掛けや観察の方法、子どもが伸びる学級へのギアチェンジの方法など、多くの事例を記載しています。これなら今すぐできるという内容から実践されることを願います。

子どもは、安心して生活できる温かい学級を誰よりも望んで毎朝、校門をくぐります。子ども、教師共に笑顔で下校できる1日にしていきましょう。

※「心の天気」の詳細については巻末の参考資料をご参照ください。



学級づくりは子どもとの 出会いの日からスタートする

「黄金の3日間」子どもは期待と不安でドキドキしている

入学式、始業式の日程を思い浮かべてみてください。毎年のことですが事務処理の時間が多くなっていることに気が付くことでしょう。

教科書に始まり、緊急連絡カード、家庭調査票など配付物と提出物の山に教師も子どもも追われています。「今年の先生はどんな先生？」という言葉がお家の方の第一声なのですが、あまりふれあっていない子どもは見た目しか伝えることができません。「女の先生」「若い先生」などの表現が多くなります。「うん、おもしろいよ」とか「やさしいよ」など教師の人間性にふれるのは少数派です。子どもにとっては先生も大事ですが、誰と同じクラスになったかの方が重要な出来事だということもあります。期待通りのクラスだったのか、何だか1年つまらなそうだと感じたのか、この日の「心の天気」は、かなり振れ幅が大きいのです。

この日を含めた3日間は「黄金の3日間」とよく言われます。

子どもとのつながりや信頼感を深めること、学習規律を身に付けることなど温かい学級づくりのためのいろいろな基盤には、入学式、始業式からの3日間の指導が大きく影響してくるということを表現した言葉です。こうした実態をふまえて、ベテラン教師はなるべく事務処理を短時間で済ませるために、前日に配付物を全部机の上に置くなどして、子どもとのふれあいを最優先しています。教室を出るときには一人一人と目を見て一言話す時間を確保しています。「あなたのためのひとこと」を受け取って帰ったら、お家の方への言葉も明日の朝の「心の天気」も明るい内容が多くなっていることでしょう。

子どものタイプと「黄金の3日間」

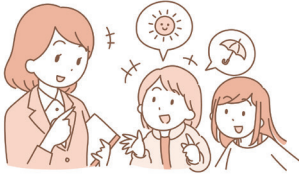
学級開きのとき、子どもには期待と不安が入り混じっています。

「新しい先生はどんな先生だろう?」「怖い先生かな?」

「新しい友達はあるだろうか?」「仲良くなれるだろうか?」

期待と不安を比べると、不安の方が高めな子どもの方が多いでしょう。期待と不安を持ち合わせた子どもは大きく二つに分かれます。

A タイプ 気持ちがわかりやすい子

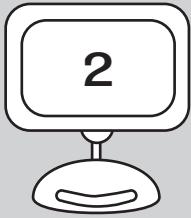


B タイプ 気持ちがわかりにくい子



Aタイプの子どもは教師や友達とのコミュニケーションに支障があまりなく、「心の天気」に入力された天気と行動のずれがあまりありません。気楽に質問にも答えられるので「昨日、雨だったけど何かあった?」と聞いてもすぐに応答ができ、教師と会話することで問題も解消しやすくなります。聞いてもらえただけで満足することもあるでしょう。

一方、この時期、特に配慮が必要になっているのがBタイプの子です。次章では、このようなタイプの子どもも含めて、「心の天気」を活用して、子どもの発信するサインから「子どもの困った!」をキャッチする具体的な方法について説明します。



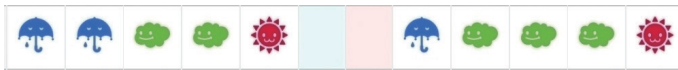
「子どもの困った！」を キャッチできる教師になる

晴れ、くもり、雨、雷で先生とつながる

「心の天気」は、子どもが心情を「晴れ、くもり、雨、雷」で表現して先生と共有する機能です。子どもが入力する天気から、どのようにして「子どもの困った！」をキャッチできるのか、いくつかの例を見ていきましょう。

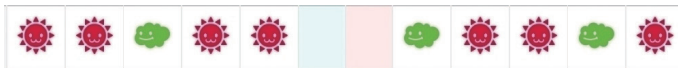
※図は、それぞれの子どもの2週間分（月曜～翌週金曜）の「心の天気」を示しています。

① 晴れ以外（雨、雷など）が連続している子ども



晴れがよいというわけではありませんが、晴れの回数がとても少ない場合は「何となくつまらない」などの理由で新学級への不安感が大きい場合が考えられます。教師からの支援が必要な状態と言えるでしょう。

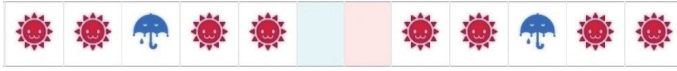
② 晴れと入力しているが学校生活での表情は暗い子ども



うそをついているわけではなく、心配させたくないという思いがあったり、「なぜ雨なの？」と質問されたときに返答できないと困ったりするので、晴れを入力しているかもしれません。心の状態と行動が一致して

いないので本人が一番悩んでいることでしょう。

③ 特定の曜日が雨になっている子ども



時間割を見て気持ちが落ち込む場合もあります。特定の教科に抵抗感があったり、給食を残してはいけないという思いが負担で給食時間になると腹痛になったりします。これ以外にも、日直としてみんなの前で話すことや一人ずつ順番に発表する授業が嫌な場合もあります。これらの「困った！」は保健室へ行く時間帯とも連動している場合がよくあります。また、特定の時間帯、特定の内容が問題なので、その時間が過ぎると元気になる場合が多いです。

④ グループ活動など特定の活動がある日が雨になっている子ども



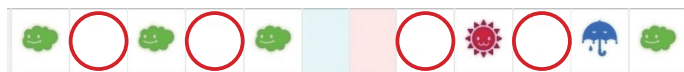
この「困った！」はキャッチが難しいです。データから読み取ることにはなかなかできません。グループ活動が毎時間あるわけではないので、データから傾向を読み取りにくいからです。ただ、マイナスの気持ちは残っているので天気に反映していることは確かです。

このようなとき、教師の観察力が重要です。「グループ活動をするので机を移動してください」と言ったときに素早くできるか、時間をかけてなかなか移動しないかなどが観察の一つのポイントになります。

グループ活動で困っている要因としては、グループ活動での自分の役割や友達の言葉遣いが負担になっていることが考えられます。席替えをしたら急に元気になる場合などは、班やグループでのコミュニケーションに問題があったと考えられます。

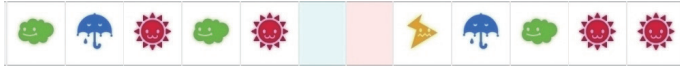
新学級になった当初、前学年で仲の良かった友達が隣のクラスにいると休み時間にいつもそこへいく子どもがいました。自分の居場所が新学級にないと感じているからでしょう。「違うクラスへは入らない」というきまりを示すのではなく、新しい学級で新しい友達を作ることを支援したいです。

⑤ 天気がなかなか入力されない子ども



子どもたちが元気になるために、教師からの声かけ、ノートへの朱書きなどいろいろな支援の方法があります。ただ、支援の言葉が子どもの思いとずれていると「天気を入れてもあまりいいことはない」と子ども自身が判断してしまい、新しいことにチャレンジする気持ちにならないことがあります。新しい情報端末を与えても興味を示すのは一時的ですぐに飽きてしまいます。このような子どもには「失敗や成果がなかなか出ないこともあるけれど、何でもやってみると前よりもおもしろいことが見つかる」といった体験を積み重ねることが大切です。教師は長期的に見守る姿勢を持ちましょう。

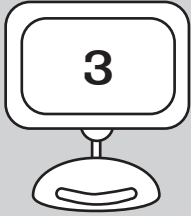
⑥ 天気がばらばらでよく変わるから本当の気持ちがあつかめない



いい加減に入力していて本当の気持ちかどうかわからないと思われがちな子です。でも、継続観察すると前述した①～④のどこかに当てはまりそうだという傾向が見えてきます。

会話が得意な子どもならば質問も可能です。「昨日の雨はなぜ?」「今日は晴れだから何か楽しみなことがあるの?」などと聞くこともできます。1日を平均して天気を決める子どもばかりではありません。友達とトラブルがあったから1時間目は雨、でもその後のテストがとてもいい点数だから今は晴れ、など気持ちは変化します。これらは小学生ならばごく自然な気持ちの変化です。入力した時間帯によって雨だったり晴れだったりするので、入力マークではなく、何が要因だったのかを把握することが子ども理解につながります。





「子どもの困った！」から 子どもとつながる

子どもとつながるためのホップ・ステップ・ジャンプ！

ベテラン教師になると子どもの日々のようすを観察することによって、問題が表面化する前に「子どもの困った！」を見つけられます。一方、ベテラン教師でなくても「心の天気」を活用することによって、ベテラン教師とまではいきませんが、「子どもの困った！」に気づきやすくなります。ここでは「子どもの困った！」に気づいた後の具体的に起こすべき行動、子どもとつながるためのホップ・ステップ・ジャンプについて説明します。

子どもとつながるためのホップ・ステップ・ジャンプ

1. まずは笑顔で声かけ！（ホップ）
→ 子どもの心の貯金をふやそう！
2. 天気の変化を観察！（ステップ）
→ 教師の動きの効果を判断しよう
3. 子どもの表情や行動を観察！（ジャンプ）
→ 子どもからの困ったサインを子ども自身からみつけよう

ホップ：まずは笑顔で声かけ！

「子どもの困った！」に気づいたとき、最初に行ってほしいのは笑顔での声かけです。ここでは声かけのポイントを記します。

① 声かけのタイミングを大事にしましょう

声かけのタイミングとしては、休み時間、給食時間、清掃時間など比

較的自由な時間帯の方が気楽に聞けます。また声かけの内容が学習と離れていると話題が豊富になり、子どもは話しやすくなります。

「今日の給食、先生はちょっと苦手なんだよね。だからすごく時間がかかった」
「掃除がていねいだよね。お手伝い上手だからお家の人が助かるね」
「休み時間に図書館へ行くことが多いんだね。先生もこの本読んだことがあるよ」

など答えを求められる雰囲気がなく、自由に話せる話題がいいでしょう。

② 笑顔で表情豊かに声かけしましょう

子どもは先生の笑い声が好きで安心します。話している最中に笑っていると共感度が高まります。友達から「先生と何話していたの？すごく楽しそうだったね」と言われてとても元気になった子がいました。

③ 短い声かけであえて返事を求めないようにしましょう

前述Bタイプの子ども（自分からサインが出せない）は、自分の気持ちを上手に説明したり瞬時に返事したりすることがあまり得意ではありません。相手に返事を待たれると困るのです。4月当初であれば、まずは教師から話しかけられることに安心感を持てればよいと考えましょう。安心感が増してくると自然に言いたいことを伝えるようになります。

「うん」とか「でもね…」とかが出てくるようになってくれば安心度がステップアップしたことになります。

④ 不登校傾向のある子とつながりましょう

不登校傾向のある子どもは、新しい学級がわかる始業式に登校する確率が随分と高いです。自分の居場所を確認して安心したいという気持ちが大いからでしょう。今は対面ではなくオンラインでもつながることができるようになってきました。保護者と相談してオンラインでつながることを提案していきましょう。

入力しない日があってもよいので、少しずつ入力する日が増えることを目標にするスロースタートを心がけ、保護者とも協力体制を作ります。

ステップ：天気の変化を観察！

① 継続して見守っていきましょう

声かけによる支援がすぐに天気には反映するとは限りません。数日間ぐらいい経過観察し、変化が見られないようならば他の話題や友達を交えた交流など方法を変えてみることも考えられます。ただ、天気自体は変わらなくても行動や表情が良い方向に向かっていると判断できれば、見守ります。

その子どもにとって何が安心感を与える材料となるのかを見つけるには時間もかかります。心を開くのにかかる時間は一人一人違います。

② 天気の変化を、本人に伝えましょう

言いつばなしではなく、先生は自分のことを見ていてくれるということが認識されると教師の言葉かけに「重み」が出ます。誰も知らない個人的な変化を担当の先生は知っていてくれるとわかると本音の入力に近くなり、行動や表情と天気マークが一致してきます。いつのまにか先生と自分だけの秘密のやりとりになっていくから、マークが記号ではなく大事なサインとなるからです。

教師は「天気がよくなった。安心した」というところで止まってしまうがちですが、「火曜日は晴れだったね」「くもりより晴れが増えたね」などと本人に伝えるところまで進んでください。「だってね…」と直接返事が返ってくるようになればさらにつながりが深まったということになります。

ジャンプ：子どもの表情や行動を観察！

① 子どもの変化に臨機応変に対応しましょう

子どもの気持ちは時々刻々と変化します。朝の気持ちが一日続くこと

はあまりなく、晴れになったり雷になったり、常に変化するのが普通です。入力した天気を手掛かりにはなりますが、頼りになるのは教師の目や耳による観察力と臨機応変な対応です。

子どもの顔、表情、動きを観察し総合的に判断します。困ったことがあって一時的に落ち込んでいるだけなのか、ずっと続くかどうかが重要です。日々の天気からマイナスの気持ちが継続していると判断すれば声かけも早めにでき、早期対策で問題を早めに解決できます。

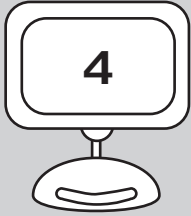
② 子どもが元気になる働きかけをしましょう

元気になる、友達と仲良くなるきっかけがつかめない段階がまだ4月中はあります。どうやって仲良くなっていいかわからない子どもです。だからと言って「〇〇さんとなかよくしましょう」などと教師が言うのは効果が低いです。言われた側はそれを教師からの指示と思うからです。学級会でゲームを行うなど子ども同士で自然に会話が弾むような企画を試みましょう。

③ ノート等も活用してコミュニケーションをとりましょう

声かけは簡単でどこでもできますが、子どもがいる時間帯にしかできないデメリットもあります。子どもが帰ってしまってもできる支援としてはノート、ワークシート等の活用があります。

提出された漢字の宿題ノートに「給食をおいしそうに食べていたよね」などコメントを書き、支援の言葉を添えることができます。「心の天気」の「コメント機能」を使って気になる子どもにコメントを送ることも方法の一つです。「え？そんなところを見ていたの」と誰も見ていないところを教師から伝えられると安心感が増します。宿題ノートを返すときも「心の天気」のコメントを見るときも子どもの表情が変わります。まるで通知表のように誰にも見せないようにこっそりのぞき込む子どもが出てきます。教師もその様子を見て笑顔になりましょう。



1年間を通した 温かい学級づくりへの道

心の変化をつかむ時期をおさえる

温かい学級づくりのスタートである4月を中心に述べましたが、学級づくりは1年間続きます。教師は日々、子どもの様子を観察していますが、ここでは年間を通して、特に重点的に見ていきたい時期を紹介します。

《長期休暇明けの生活の変化に対応する》

長期休暇明けは多くの子どもにとって生活のリズムを切り替えなくてはならない重要な時期です。

① ゴールデンウィーク明け

ゴールデンウィークでは1週間以上学校へ来ない日が続くことがあります。学校や友達との交流がなくなり、せっかく4月によい関係作りができたのに元に戻ってしまう子どもがいます。5月の行事の中で気持ちが安定しているかを注意深く見ていきましょう。

以前、保護者から「毎年5月になると食欲が減り、学校へ行くのをしぶるようになります」と4月に相談がありました。貴重な情報を早めに知ることができ、4月から5月にかけて十分な支援をすることができました。保護者は子どもの心の変化を敏感に感じ取って把握しています。その子どももその時期を乗り越えられたので次年度に申し送ることができました。

② 夏休み明け

宿題提出が負担になる子どもがいます。心の状態を把握して提出方法も個に応じた対応が必要になるでしょう。例えば9月に頑張ることを話題にした方が心の負担は減ることがあります。

また8月末に登校日が1日設定されている学校もあります。そのときに養護教諭から睡眠時間等を記入するカードが配布されていました。夏休みで乱れた生活を通常の状態に戻すようにするためですが、あわせて心の様子も把握したいです。

「残暑見舞い」を出して学校とつながるようにしている先生もいました。情報端末配付で個人的なコメントもより簡単にできるようになるかもしれません。

《学校行事などによる気持ちの変化に対応する》

長期休暇と並んで、一部の子どもたちの心に負担を与えるものに各種行事があります。子どもたちが行事を通じて確実に成長していけるように必要な支援を行っていきましょう。

① 運動会・マラソン大会・学芸会など

運動の苦手な子どもにとっては体力よりも心の負担が大きいようです。学級の中でも振れ幅が大きくなることが多いでしょう。

学芸会・学習発表会などは個人が大勢の前で話す場面があります。話す内容やセリフが決まっても、大勢に見られることが負担になります。

② 水泳の授業

毎日ではありませんが、6月から7月まで長い期間、体育の授業内容となることがあります。水泳のある日は登校しぶりがあるという子どももいます。見学回数が多くなったり、晴れマークが減ったりしたら、水泳の授業についての気持ちや考えを個人的に相談してみましょう。

③ 修学旅行・野外学習など

宿泊を伴う行事は班編成が大きく影響します。班編成の決め方や班の構成が納得できるかどうかで参加そのものを躊躇する子どもも出てきます。学年で統一方針を決め、個別に対応します。宿泊先で紙の健康カードに「心の天気」記入欄を設け、個別に提出している学校もありました。

参考資料「心の天気」

「心の天気」はGIGA スクール構想における一人一台端末で活用できる「心と学びの記録・振り返り支援システム「スクールライフノート」(株式会社 EDUCOM)」に搭載されている機能です。

子どもが朝・帰りの気持ちを「晴れ、くもり、雨、雷」の4つの天気記号から選んで登録します。文字入力による「ひとことメモ」も残せ、気持ちを文字にして先生に伝えることもできます。先生は「コメント機能」を使って、気になる子どもに個別に声かけが行えます。

先生は子どもが登録した情報と表情・言動などの様子をかけ合わせることで、より詳細な子どもの心情理解ができるようになります。ちょっとした天気の変化をとらえて声かけすることで問題が大きくなる前に対処できるようになり、子どもも「天気でサインを送れば先生に気づいてもらえる」と感じ、教師への信頼も増加します。



詳細は、以下から EDUCOM ホームページをご覧ください。

製品詳細



お問合せフォーム



memo

memo

◆ 著者プロフィール ◆

和田 裕枝 (わだ ひろえ)

現在、授業と学び研究所フェロー

1956年生まれ。愛知県公立小学校教諭、愛知県教育委員会指導主事、豊田市教育委員会指導主事、教頭、校長などを経験。「学級づくり」「算数授業」などの模擬授業や講演多数。現在も学校へ訪問して授業指導や助言、市教育委員会主催の研修は年間50回を超える。

●著書:「学級づくりカレンダーをもとに創る わくわく算数授業」(共著・2017年・愛知教育大学生協書籍部)

「学校力アップシリーズ」**特別版**

心の天気を活用した温かい学級づくり

～「子どもの困った！」をキャッチして子どもとつながる～

初版発行 2022年3月17日
著者 和田 裕枝
企画 株式会社 EDUCOM
発行者 柳瀬 貴夫
発行所 株式会社 EDUCOM
〒163-0415
東京都新宿区西新宿 2-1-1
新宿三井ビルディング 14階
TEL.03-6279-5011
